

R.I. District2610 . ROTARY CLUB OF UOZU

魚津ロータリークラブ 会報誌

2010 - 2011 年度 R 会長 レイ・クリンギンスミス
2010---2011 年度 魚津 R.C 会長 宮本 汎



第 2756回 例会報告

2010年 12月 3日

ゲストならびにビジター紹介 ゲスト: 魚津漁業協同組合 参事 浜住博之 様



誕生祝 12月3日 若井君 お祝いしていただき、ありがとうございました。1951年生まれのためまだ50台です。最近、妻から除雪の機械を買ってもらいました。来年はうさぎ年で私の干支なので、一生懸命頑張っていきます。



12月5日 羽田君 あと二日でピタリ賞でした。1945年生まれなので、あと二日間は60台前半です。昨日市役所から介護保険の資料が届きましたが、まだ不要なので引き出しに仕舞いました。自分の気持ちはまだ50台です。今後ともよろしくをお願いします。



会長挨拶 私は魚津水産の産業医を20年間勤めていますが、(漁協には) 20~30台の人が多くおられて、60台の人はあまりいません。本日は魚津漁協の浜住さんがお見えですが、我々は森に木を植えて水源を確保し海に養分が行くように努めています。

ところで、みなさん「ミソバチ」が減った原因は何か知っていますか。携帯電話の「電磁波」であり、ミソバチの活動が半分に減っています。これを経済効果の点でみてみますと、アメリカで1兆2000億円の損害を受けています。人間以外にもミソバチのような動物の環境を守ってやらなければなりません。

また、「米」の需要が減っていますが、政府は減反政策をとり反対のことをしています。みなさんどんどん「米」を使って下さい。年末の募金をやれば良いと思いますので、ご協力をお願いいたします。

幹事報告 黒部 RCより 12月度例会案内

つくし学園より クリスマス会のご案内

12月例会案内 12月10日 年次総会 会長・常任委員長 上期活動報告 (ホテルサンルート)
12月16日 年忘れ家族会 (宇奈月ニューオータニホテル)
12月24日 卓話 朝野君・中田君 (ホテルサンルート)

12月 SAA 補助 杉野君 中島尚夫君 よろしく願いいたします。

出席報告

本日の出席者 30名 出席率 88.23% 欠席者 4名
メイクアップ済み 清水君
2754回メイクアップ なし
2754回修正出席率 97.05% 97.05%

ニコニコボックス

谷川君 長期欠席申し訳ございませんでした。
宮本会長 師走です。お体には十分気をつけて下さい。

委員会報告

「ロータリーの友」のポイント説明 広報委員会 中島尚夫さん

横書き20ページに、「ESG経営」が始まる というタイトルで末吉竹二郎さんの記事があります。これからは財務オンリーから、環境E、社会的責任S、ガバナンスG(これらを総称してESG問題という)も取り込んだ複眼的な企業経営が求められている、という内容で興味があります。右側縦書きの最初に「備えあれば患えなし」という題名で、30年以内に発生する確立が高い「南海地震」に備えて、「まさか」から「もしかしたら」へと意識改革をして地震に備えておくことが重要であると訴えています。また、19ページの「ロータリーバッジの重み」の中では、バッジを見た瞬間に自分が社会に貢献していることを自覚させてくれた、という内容のエピソードが紹介してあります。

本日の卓話

「鉄イオンによる藻場造成」 魚津漁業協同組合 参事 浜住博之 様

私が今から話す内容は「四つのテスト」の中の、真実かどうか、みんなのためになるかどうかに該当するのではないかと考えています。みなさんが聞いて「ほんとうの話なのか?」と思われるかもしれませんが、四つのテストを踏まえてお話しさせていただきます。

昨年CO2削減の取り組みとして、「使用済み使い捨てカイロ回収」を打ち上げました。このカイロがなぜ「藻場造成」なのかはこれからお話します。カイロを集めたきっかけは、磯やけで藻場がどんどん衰退して、沿岸漁業に大きな影響を与えている

からです。藻場は魚の産卵場であり、かつ小魚の隠れ家でもあります。そういった藻場が富山湾でもどんどん衰退して沿岸漁業で魚が獲れなくなっています。今後の日本の漁業はどうなるのであろうというような、将来の不安解消のために藻場を回復できないかと思い、私たちもRCと同様に山に木を植えてきました。しかしその木が育って恵みを返してくれるまでは100年とか、ものすごく長い期間がかかります。そこで即効性のある方法を考えました。

「富山湾を豊かにする川と地下水」という絵の中に描かれているように、これが自然のメカニズムであり、山と海が水を通じて繋がっています。最終的には海草が育ち、植物プランクトンの発生により動物プランクトンがそれを食べ、小魚がそれを食べて食物連鎖が起きます。そして魚が育ち魚津に美味しい魚をもたらしてくれま



す。それが少しずつ狂ってきています。

循環が狂ってきた原因は、鉄が足りなくなっているからではないか、ということに目をつけた人がいます。昔鉄橋の下にはシジミ貝がたくさんいたとか、包丁をといで流した排水溝は淀まない、とか言われました。かつて山から流されてきた鉄が砂浜に多くありましたが、今は少なくなっています。この鉄が植物プランクトンを増やし、エサとなる動物たちを増やしていく、ということに役割を果たしているという点に注目をしていきました。いま自然界にある鉄は非常に



水に溶けにくい「酸化鉄」というものになってきて植物が取り込めない状態になっています。これを植物が取り込めるような「鉄イオン」でないと植物が育たないという点が大きなポイントです。

植物は光合成によりCO2を吸収して酸素を出します。海草も同じなので、海草を増やせばCO2の削減になります。効率的に植物を育てるために吸収しやすい鉄イオンをどうやって作るかというと、「電池」なんです。

「鉄炭団子の原理」を活用し炭素と鉄がくっついて「鉄イオン」を発生させます。これが「使い捨てカイロ」の使った後の状態なんです。成分表をみてみますと、このカイロの中に全部そろっています。鉄粉・水・活性炭・バークミキュライトなどです。使い捨てカイロは小さな電池そのものです。省エネでエコなものになります。今まで捨てていたものが有効なものに化けるのではないかと思います。半信半疑で富山湾のような大きな海の中で実現できるのかと思いましたが、原理はまさに合っています。これを使えば、再び豊かな海に戻せるのではないかと思います。カイロを集めることにしました。

今は小学生の力を借りて、経田漁港の港内・近辺に「鉄炭団子」をまいて海をきれいにしようとしています。何もしない魚津港と比較して成果をだそうと考えています。賛同される方からカイロをもらっています。時間がかかるかもしれませんが、山に木を植えて100年待つよりも、このような取り組みに期待したいと思います。

